



10月15日から11月5日まで、毎日の走行距離などが計測できるサイクルメーターを使用し、自転車エコ通勤通学CO₂削減コンテスト「市民力チャレンジ」を実施しました。

3人1組のグループを作り、20日間の通勤・通学などの距離を計測。1位のグループは走行距離が約5,000キロメートルでした。一人1日当たり83キロメートルを超える、まさに自転車の猛者たち。しかし、参加したグループの平均は、一人1日当たり12キロメートルです。通勤通学を前提とすると、片道6キロメートルの往復という数字。これなら一般の人でも、自転車通勤に換えられる距離ではないでしょうか。

1日往復で12キロメートルの自動車通勤を自転車に換えると、燃費10キロメートル/リットルの自動車では1日当たり2・76キロメートルのCO₂が削減できます。1年間に換算すると、



CO₂削減を実証

自転車エコ通勤通学CO₂削減コンテスト「市民力チャレンジ」

「市民力チャレンジ」表彰者の皆さん



片道6kmの通勤を自転車に換えれば、ペットボトル702本分のCO₂削減に！

■燃費10km/ℓの車1kmあたりのCO₂排出量は2.3kg ÷ 10km = 0.23kg
※ガソリン1ℓあたりのCO₂排出量は2.3kg

■この車で往復12kmを走った場合の排出量は0.23kg × 12km = 2.76kg
→2ℓのペットボトル702本分！
(CO₂を1気圧・0度の測定下で509ℓ/kgとして換算)

車の燃費と通勤距離を当てはめれば、誰でも簡単にCO₂排出量が分かります。普段気付かないCO₂排出量。あなたも計算してみてください。



690キロメートルの削減に。毎日の自転車通勤は大変という場合、週2日から実行してみても287キロメートルのCO₂が削減できます。燃料代の不安定な現在、ガソリン代を節約できるうえ、CO₂の削減にもなり、いいことづくめの自転車。あなたも通勤や買い物など、できるところから、もっと自転車を利用してみてはいかがでしょうか。



日本一の自転車王国へ

「まえばし」は目指します

本市は、平成11年に国土交通省から自転車利用のモデル都市の指定を受け、平成17年に全国に3市しかない「スーパーモデル地区」に指定されました。自転車が行きやすくなるために、歩道との段差を無くしたり、カラー舗装化をしたり、放置自転車対策、自転車道



前橋警察署前の歩道整備

ネットワーク整備などの自転車利用環境の整備に取り組んでいます。

また、今年5月に「日本一の自転車王国まえばし」を打ち出し、ソフト面での取り組みもスタート。まず、北京五輪の自転車トラック競技の日本代表選手を招き、選手への激励や交流、自転車の普及を推進するために市街地でのパフォーマンスやユニーク自転車の試乗体験などを行いました。また、11月8日から16日までの9日間、「まえばし自転車フェスタ2008」を開催。自転車アートコンテストやサイクリング大会、シンポジウムなどさまざまなイベント（10・11月）を展開。今後は、企業との連携による自転車利用の促進や市職員の移動する足に自転車を利用するなどを計画しています。

今後も、地球にも健康にも優しい自転車の魅力を「まえばし」は全国に発信していきます。



自分の生活習慣から
ぴったりの自転車を

探そう

写真提供/成美堂出版



シティサイクル

ごく普通の自転車。いわゆるママチャリです。変速の付いたタイプや両立てスタンドで駐輪時も転びにくいものもあります。通勤、通学などに利用され、家族みんなで使えるタイプです。



折りたたみ自転車

小さく折りたたむことができ、持ち運びに便利な自転車です。部屋の中に置いて盗難の心配もなく、バッグや車のトランクに入れて旅行にも使えます。全年齢層に人気があります。



マウンテンバイク

山岳地帯などの急峻降下、段差越えなどを含む広範囲の乗用に対応する自転車です。耐衝撃性、衝撃吸収などを図った構造。現在では舗装道や整地走行用としても幅広く利用されています。



クロスバイク

ロードバイクとマウンテンバイクの中間に位置し、両方の利点を取り入れた自転車です。フラット型のハンドルバーが特徴。通勤や通学などに向いているスポーツ自転車の入門用です。



ロードバイク

舗装路での高速走行に特化した自転車です。主にロードレースで使用され発達。高速走行性能を最優先に設計され、不要な部品は基本的に装備しない。自転車の中で最も軽量化が進んでいます。